

東京都自立支援協議会セミナー

全国の地域移行・地域生活の

**効果的な支援モデル**

～本人の望む暮らし・家族，支援者，

地域は変わる～

群馬医療福祉大学 社会福祉学部

講師 新藤健太

## “わたしの紹介”

### “大学での仕事”

- ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の養成

### “これまでににかかわったプログラム評価関連の仕事”

- 障害者就労移行支援プログラムの効果モデルの構築とその実施・普及
- 生活困窮者自立支援制度の自立支援相談事業における就労支援プログラムの評価ガイドライン作成
- 休眠預金等活用事業にかかわる評価アドバイザー業務
- 知的障害者の地域移行・地域定着支援に関する効果モデルの構築 など

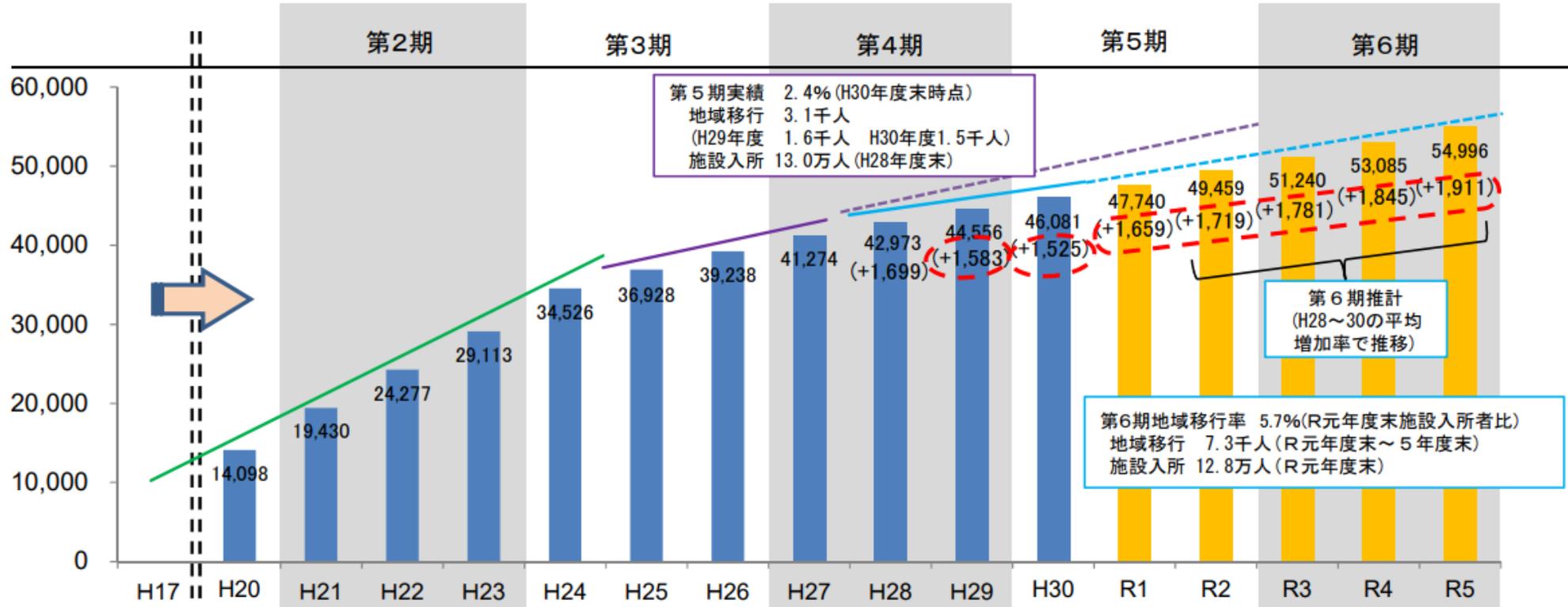
## “報告の内容”

### •なぜ、地域移行・地域生活なのか

- 全国の素晴らしい実践（Good Practices事例）の経験から
- 効果的な支援モデルの提案
- まとめ（研究の今後と自立支援協議会に期待したいこと）

# 施設入所者の地域生活移行者数の推移について(参考データ)

## 施設入所者の地域生活移行者数の推移



### 基本指針における実績値

|      | 第1~2期<br>(H18~23年度)                    | 第3期<br>(H24~26年度)                      | 第4期<br>(H27~29年度)                | 第5期<br>(H30~R2年度) | 第6期<br>(R3~5年度) |
|------|--|--|----------------------------------|-------------------|-----------------|
| 基本指針 | 10%                                    | 30%                                    | 12%                              | 9%                | 6%              |
| 実績値  | 21.8%<br>(平成17年10月1日~<br>23年度末(6.5年間)) | 26.9%<br>(平成17年10月1日~<br>26年度末(9.5年間)) | 5.8%<br>(平成25年度末~<br>29年度末(4年間)) | -                 | -               |
|      |  | 39,238人                                | 7,628人                           | -                 | -               |

平成21~23年度は10月1日数値、24年度~30年度は3月末数値。令和元年度以降は推計。(出典:施設入所者の地域生活の移行に関する状況調査)

# “GP (Good Practices) 事例調査より (氏名等一部加工)”

## ★11年かかってグループホームに移行した人の話(スライドは概要)

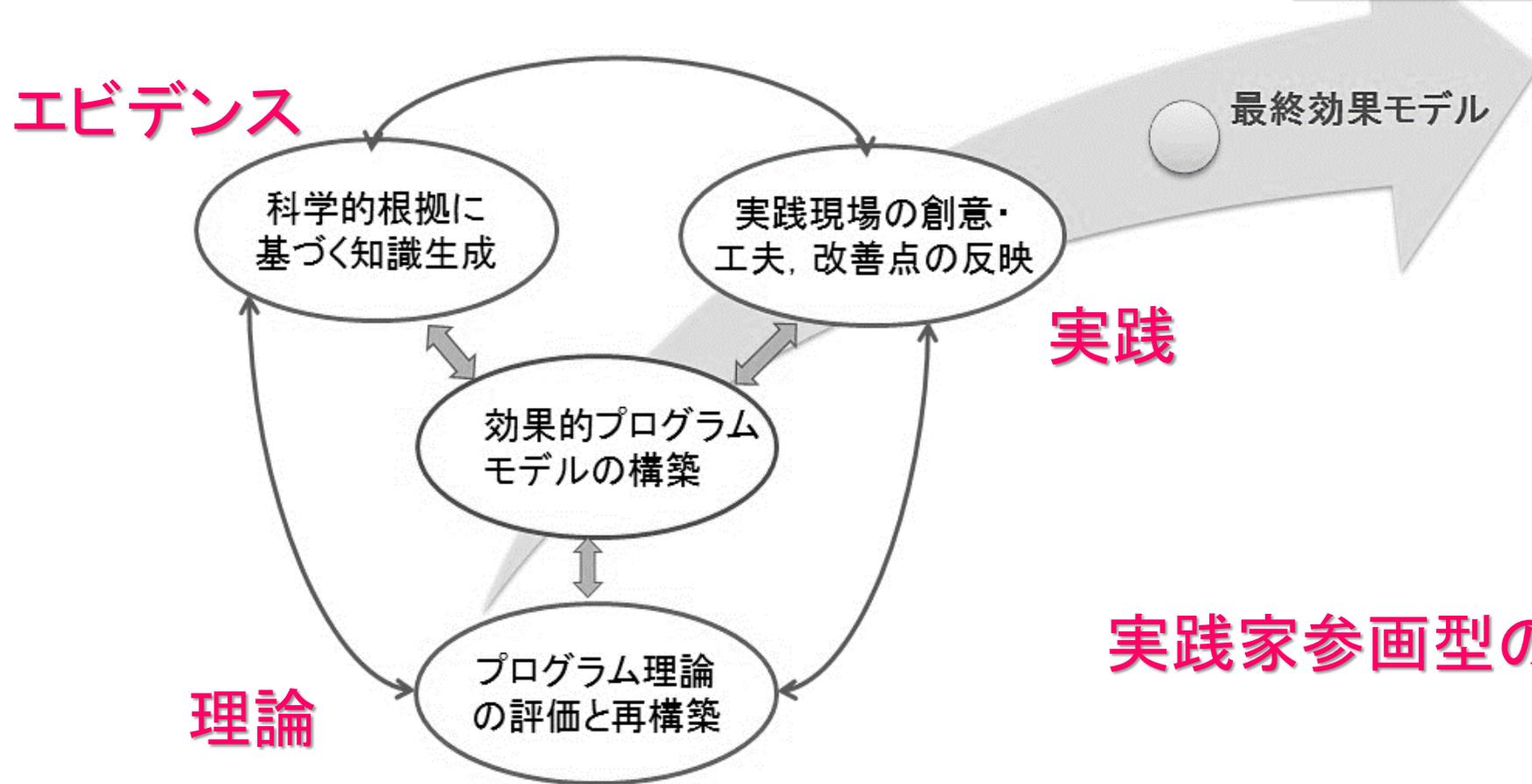
- まずはお母さんが暮らしている地域の入所施設 (B施設) に帰り, その後, 11年かかって地域のグループホームで暮らすようになった。
- その間, 施設長さんが3人変わっていたが, “A施設から来た彼女をグループホームに出すのが約束なんだからな, 忘れるなよ, 使命だぞ” と代々引き継いでいた。
- 11年前に, この方の支援を色々考えてくれた職員さんが, B施設の施設長になられていた。

# “報告の内容”

- なぜ，地域移行・地域生活なのか
- 全国の素晴らしい実践（Good Practices事例）の経験から
- 効果的な支援モデルの提案
- まとめ（研究の今後と自立支援協議会に期待したいこと）

# “わたしの研究について(1)”

プログラム理論・エビデンス・実践間の円環的対話による効果的プログラムモデル形成のためのアプローチ法：CD-TEP法）



実践家参画型のプログラム評価

大島ら(2019)

## “わたしの研究について(2)”

1. これまでの研究等資料を調査(仮説のモデルを作成)
2. インタビュー調査(全国の素晴らしい実践16法人)
3. インタビュー調査のデータを分析(仮説のモデルを修正)
4. 修正した仮説モデルにもとづくアンケート調査
5. 効果的な支援モデルの提案

## “インタビュー調査でおうかがいしたことの例”

- ①ゴール・ミッションについて
- ②ご利用者様を対象にした具体的な働きかけについて
- ③ご家族様を対象にした具体的な働きかけについて
- ④地域（社会）への働きかけについて
- ⑤支援職員への働きかけについて

## “①ゴール・ミッションについて(1)”

### 【奪われてきた経験を取り戻す!!】

- 本人からすると、奪われてきた経験を早いうちに取り戻していきながら、その経験を積み重ねていく。そうして地域に移行していくってことが大事と思っている。

### 【自分たちも信念をもって取組む!!】

- 説得する側が自分なりに納得しておかないと説得ってできない。
- そのために職員が皆一生懸命学び、体験してきた。

## “①ゴール・ミッションについて(2)”

### 【障害の重さは関係ない!!】

- (むしろ)障害の重い人や高齢の人に優先して地域移行をしてもらうべきだと思う。こういう人たちのなかには、最もストレスを受けやすい人もいて、地域移行後に生活が安定することもある。

### 【本人が変わることで親御さんも変わる!!】

- 本人が変わることで親御さんも変わらざるを得ない部分があるように思う。本人がいきたい(地域移行したい)と言うことが大きい。

## “②利用者を対象にした働きかけについて(1)”

### 【丁寧に意思を確認する!!】

- まず全ての利用者の意思を確認する。言葉で意思を表明できる人ばかりではないが、何かしらの方法でご自身の意思を表明している(意思がない人はいない)。

### 【地域生活を体験する!!】

- 体験したことがないものを選ぶことはできない。全ての利用者に一度は地域生活を体験してもらおう。安心して体験してもらえるような様々な配慮を行う。

## “②利用者を対象にした働きかけについて(2)”

### 【入所施設にいる間にご本人を良く知る!!】

- 施設への入所前からアセスメントは始まっていて、面談等を通して可能な限りご本人の情報を集めていく。それが施設を退所してグループホーム等に行くときにも役立つことがある。

### 【必要であれば期限を定めないフォローアップ支援を!!】

- 移行者全員のフォローアップは続けている。例えば15年前にグループホームに移った人のことも把握している。それで何かあれば飛んでいく。それがうちの地域移行

## “③家族を対象にした働きかけについて(1)”

### 【ご家族にも見て頂く!!】

- ご本人がグループホーム等を体験している様子をご家族にも見て頂く。遠方で来られない場合等は、ご本人の了解を得てビデオを撮影したりして、後で見せて頂いたりもする。

### 【ご家族への安心感の提供も大切!!】

- 繰り返し説明し、実際の様子も見て頂き、施設からの支援がなくなるわけではないことを丁寧に説明する。ご本人が楽しそうに生活している様子を見て頂くことも大切

## “③家族を対象にした働きかけについて(2)”

### 【ご家族との関係も大切に!!】

- ご家族の想いに応える形で勉強会を行うこともあるし、親の会が“今何をしたいのか”, “何を求めているらっしゃるのか”をお互いに議論しながら年間計画を立てて進めていくこともある。

### 【ご家族同士のやり取りも重要!!】

- ご家族同士で“どうだった??”, “いやいや, それがね意外と本人が喜んでいのよ”といったようなやり取りがある。それが(支援者側には)見えないところで説得になっていたりする。

## “④地域（社会）を対象にした働きかけについて（1）”

### 【地域の状況を積極的に把握する!!】

- （世話人等の）人柄までは細かく見ることはなかなかできないが、建物の様子や仮にここで生活することになったときの通所の組み立て、支援体制、土日や食事提供の様子などを見ていく。

### 【地域のグループホーム等に関する情報をまとめておく!!】

- 地域のグループホーム等を配置したマップを作っておく。マップにはそれぞれのグループホーム等の特徴なども書き込んでおく。

## “④地域（社会）を対象にした働きかけについて（2）”

### 【丁寧なフォローアップ支援で協力機関を増やす!!】

- “移行した後も無責任なことはしないよ”というのが良い評判になっている。そうすると何かあと1枠あるよというときに、声をかけて頂ける。それが1つ、2つと増えていく。

### 【地域の方々とも丁寧にやり取りをする!!】

- 実は賛成でも反対でもないという人が多い。そういった人たちに賛成をしてもらえるように地域と提携していったり、普段からやり取りをしていくことが大切

## “⑤支援職員を対象にした働きかけについて(1)”

### 【最初は支援者も悩んでいた...】

- 当時は支援職員のなかにも“本人が地域生活をしたいと言っていないではないか”, “本人が言っていないというなかで自己決定と言えるのか”という話もあり, その答えを探すのにいくらかの時間がかかった。

### 【支援職員も一度は全員体験する!!】

- 利用者ご本人が地域生活を体験してみる際, 職員も一緒にその生活を体験してみる。全職員が1回は宿泊体験をするようにしている。

## “⑤支援職員を対象にした働きかけについて(2)”

### 【支援職員向けの継続的な勉強機会をもつ!!】

- 法人に新人育成委員会という委員会があり、皆で研修を企画して実行したり、その後にお疲れ様会をやったり、そういったことをとおして学ぶだけではなく職員間の繋がりもつくっていく。

### 【一人(もしくは少人数)職場への丁寧なフォローアップ!!】

- グループホームの職員は夜間に一人で対応しないといけない状況があるので孤立してしまいがち。だからこそ職員の話聞く、巡回をして様子を見に行くなどのサポートが必要